

きょうされん 2013

第36回全国大会 in 東北・ふくしま



USTREAM 配信してますよ～。
ユーストリーム
<http://www.ustream.tv/channel/kyosaren-zenkokutikai-2013>

ツイッター
http://twitter.com/2013_fukushima
(@2013_fukushima)



2013年9月22日(日曜日)
09:00～12:00 利用者フォーラム 「つながる」
13:00～14:50 一般公開特別シンポジウム
15:00～15:30 まとめ・閉会式

< 特別協賛 >

FUJI XEROX
富士ゼロックス福島株式会社

いよいよ始まりました！福島大会！ オープニングは、なかまの詩



オープニングセレモニー！

東北6県 なかまの詩・歌で紡ぐ構成詩

会場が暗くなり、武藤類子さんの朗読で、スタートしました。武藤さんは、元養護学校の先生で震災前には、里山で喫茶店を開いていました。自然と人間の関係を大事にしてきた人です。原発事故以来、住民や避難者の人権と健康を守る活動をしてきました。武藤さんの詩は、ふくしまの人の気持ちを、切々と伝えるものでした。次に、「あの時」の東北の様子を、仲間たちが言葉と映像で伝えました。地震が起きた時、岩手、宮城、福島の中かまは、みんないろいろな場所で働いていました。みんなと離れて避難所で暮らしたり、つらいこともありました。仲間や職員たちと一緒にだったから、怖かったけれど頑張ることができたのです。東北をはじめ全国の仲間たちが助けてくれたことへの感謝の言葉が語られました。

●3.11 あの時 わたしたちは

オープニングセレモニーの最後は、東北6県の中かまが一つのステージに上がり、パーカッション演奏で『風になりたい』を歌いました。なかまは、感謝の気持ちと東北の元気を伝えました。演奏する方も、見ている方も、元気になる演奏でした。きっと、明日からの新しい力になると思います。舞台のみんなが、輝いていました。ありがとう、みんな！一歩ずつ一歩ずつ前へ進みましょう。



大会基調講演

きょうされん常務理事・藤井克徳さんの基調講演がありました。東日本大震災で、宮城の調査で障がい者の死亡率が2倍だったことの報告に続いて、全国の地域活動支援センターへの実態調査をはじめとしたきょうされんの取り組み、生活保護水準の切り下げ・消費増税をめぐる動向など、福祉をめぐる情勢の報告がありました。今大会の目標として、被災地を忘れないこと・交流を通して新たな視座を持つこと・社会のあり方を問うことの3点を挙げ、会津藩の「仕の掟」のなかの「うそをついてはいけない」「弱い者をいじめてはならない」を引き合いに出しつつ、障がい者権利条約の批准など、国への取り組みを求める強い決意を示しました。以下に、朗読された詩を紹介しします。

どっちだろう

基本合意文書がなかったころの障害者自立支援法と
基本合意文書があつてからの障害者総合支援法と
どっちがどうだろう
微妙だけど、総合支援法の方がよくないと思う
基本合意文書に恥をかかせた分だけ



きょうされん
常務理事 藤井克徳さん

「鎮魂から復興へ」

2011年、そこで起きた事を伝えるために、被災した状況と、そこから立ち上がってきた人々を、大会の実行委員長である大和田新さんに紹介してもらい、皆さんに伝えました。



全国からたくさんの方々が福島に頂いたことを励みに、これからもがんばっていきます。皆さん、ありがとうございます。

大会実行委員長
大和田新さん

大和田新さんは、ラジオ福島のアナウンサーであり、震災そして原発事故で、最前線で住民の声を伝えてきました。「月曜 Monday (もんだい) 夜はこれから」や「ラヂオ長屋」では、住民目線で被災した住民の生の声を伝え、その徹底ぶりは、福島に住む人たちの支えとなっています。

震災から立ち上がった人たちのエピソードの中でも、特に印象に残る人たちのゲストに迎え、彼らの復興にかけの思いとパフォーマンスを披露してくれました。全国から集まってくれた人たちの心に訴える内容でした。

奇跡のピアノ（いわき市豊間）

“奇跡のピアノ”は福島県いわき市の豊間中学校にあったもので、津波で泥とがれきに埋もれて、誰もが修理は無理だと思っていました。しかし、いわき市に住む調律師の遠藤洋さんが修復し、ピアノは生き返りました。地元の学校や演奏会で演奏され、住民に希望を与えています。一昨年の紅白歌合戦で嵐のメンバーがピアノを弾き、「ふるさと」を合唱しました。今回、ゲストの普天間かおりさんの歌声と共に、希望の音が仲間へ届けられました。



じゃんがら踊り（いわき）

太鼓の音が会場に響きました。じゃんがら念仏踊りは、江戸時代から受け継がれてきた伝統文化で、亡くなった方を供養する踊りです。沖縄のエイサーのルーツとも言われています。

いわき海星高校では、伝統文化の継承を目的に、地元を中心に活動していました。そんな中、東日本大震災が発生し、2人の生徒が津波で亡くなりました。クラブは、地域の復興と犠牲者の鎮魂のため、活動を再開しました。

小名浜高校フラガール

いわきは炭坑の街でしたが、不景気で閉山し、街が寂しくなった時、復活をかけて、ハワイアンセンターができました。今ではフラダンスのメッカです。いわき市の小名浜高校のチーム「ヒラワニ カイカマーヒネ」は今年卒業したメンバーが抜け、部員が1名になりましたが、今では3名になりました。その彼女たちが、心をこめて踊りました。

「祝電」ありがとうございます！

皆さんより、たくさんの祝電を頂きました。(順不同)

全日本民主医療機関連合会 会長 藤本衛様
国務大臣 内閣府特命担当大臣 参議院議員 森まさこ様
復興大臣 衆議院議員 根本匠様
衆議院環境委員長 衆議院議員 吉野正芳様
衆議院議員災害対策特別委員長 衆議院議員 坂本剛二様
一般財団法人 全日本ろうあ連盟 理事長 石野富志三郎様
中央社会保障推進協議会 衆議院議員 菅野さちこ様
一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 中村春基様
社会福祉法人 日本盲人会連合 会長 竹下義樹様
公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 会長 橋文也様
一般社団法人 日本難病疾病団体協議会 代表理事 伊藤たてお様
衆議院議員 小籠慎司様
衆議院議員 菅家一郎様
衆議院議員 吉田泉様
参議院議員 佐藤正久様
参議院議員 増子輝彦様
参議院議員運営委員長 岩城光英様
内閣府大臣政務官・復興大臣政務官 衆議院議員 亀岡偉民様
社団法人 センコロ 会長 中村敏彦様
福島県議会議員 根根健雄様
社団法人 全国腎臓病協議会 会長 今井政敏様
公益財団法人 日本理学療法士協会 会長 半田一登様
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 代表取締役社長 鈴木久仁様
株式会社損害保険ジャパン 取締役社長 櫻田謙悟様
(9月21日 AM10:00現在)

皆さん、祝電をありがとうございます。思いがある人はつながっているよ。



PR!

アジアの障害のある人を支援する
WJピンバッチ
1F書籍コーナーで発売中！
300円/個

きょうされん
賛助会員大募集！！
くわしくは 1階ブースで受付中♪
配布のチラシ もしくは コチラから



9月22日（日）

分科会・利用者フォーラムのご案内

皆さんは、どの分科会を選択しましたか？ ふくしま大会のフォーラム3つの分科会で、震災で被害のあった福祉事業所のなかまに話を聞いて、どんな状況であったのか、どんな問題があるのかを話し合います。

分科会①

働く

震災が起きて、働く場所を失った岩手、宮城、福島の作業所に通う人たち。何もすることがない、給料が出ないという状態に追い込まれましたが、希望を見失わず、事業所を再開させ、仕事おこしをしてきました。

働く意味、ここで生きる事について、岩手、宮城、福島の事例を紹介してもらいながら、みんなで考えていきます。

コーディネーター

西澤 心（ワークショップほのぼの屋）
斉藤なを子（鴻沼福祉会・常務理事）

シンポジスト

松原千晶（きらら作業所・宮城）
佐藤定広（南相馬ファクトリー・福島）
西條一恵（あすなろホーム・岩手）

郡山ユラックス熱海
大会議室

分科会②

住まう

津波で家を失った岩手、宮城の人たち、福島の人たちは原発事故で、避難を余儀なくされた。障がいの有無にかかわらず、自分たちで避難しなくてはならなかった。仲間の家やグループホームに通う人はどうだったの？ 今でも避難し続けて、仮設住宅から、通ってくる人もいる。災害が発生した時、私たちの生活を支える方法は？ これからの生活をどうするのか？

コーディネーター

後藤 強（ゆたか福祉会・常務理事）
松本多仁子（かがやき神戸・副理事長）

シンポジスト

熊井睦子（輝くなかまチャレンジどころさをり・宮城）
栗田 誠（JDFいわて支援センター・事務局員）
西みよ子（あさがお・福島）

清稜山倶楽部（西館1階）

※ユラックスより車で5分

分科会③

支えあう

震災と原発事故で、地域の生活が困難になった時、障がいを持つ人と一般の人の区別はなく、避難しなければならなかった。その時、お互いの顔を知っていた集落単位で避難した人は、避難先でも安定し生活ができた。障がいがある人こそ、地域の一員として生活することが大事だった。それぞれの現場で命を守ってきた人たちに話を聞く。

コーディネーター

古賀知夫（かしはらホーム・施設長）
増田一世（やどかりの里・常務理事）

シンポジスト

小山 貴（JDFいわて支援センター・事務局長）
西浦武義（元南相馬市健康福祉部長）
村松美恵子（ひまわりの家・事務局長）

郡山アイスアリーナ

※ユラックスの隣の建物

利用者フォーラム

わかりやすく、3.11の事を伝え、全国の仲間たちと交流し、共に作り上げるフォーラムです。

ドキュメンタリーの映画鑑賞とトーク、陸前高田のベンチャラズとみんなで歌を歌ったり、元気になるお話を作ります。楽しめる内容になっています。

ユラックス熱海
多目的ホール

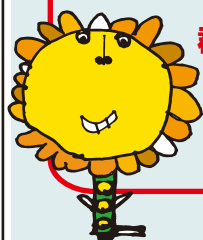
9/22 視察観光コース

南相馬コース

いわきコース

会津若松 A(あかべこ) コース

会津若松 B(飯盛山) コース



9月22日（日）8時30分受付・9時スタートです！

みんなにとっての
ここから「つたえ・つなぎ・はじめる」

地震、津波そして原発事故。岩手、宮城、福島では、JDF（日本障害フォーラム）の支援センターが立ち上がり、被災した現場に、支援物資を送り、被災状況調査しニーズを把握し、被災した人への支援や施設の支援を行ってきた。支援に入ったのは、きょうされんをはじめとする全国の仲間たちだ。何度も来て支援に入っている人もいるが、現地の人たちの交流から、大事なものを得て帰っていく人が多い。できたつながりから、新しい何かが生まれるかもしれない。きょうされん福島支部のブログから、一部抜粋して紹介します。



いざ福島へ！

復興のための車両提供事業

きょうされん熊本支部の宮田です。私は、熊本県中小企業家同友会という団体で被災地支援の活動グループに入っています。大震災の直後から、復旧・復興のためには車両が必要であると、無償提供の活動に取り組んできました。車両を提供する方、車検・整備を提供してくれる整備工場、たくさんの協力の力で実現したのです。また、搬送費用は希望の缶詰の販売でまかないました。

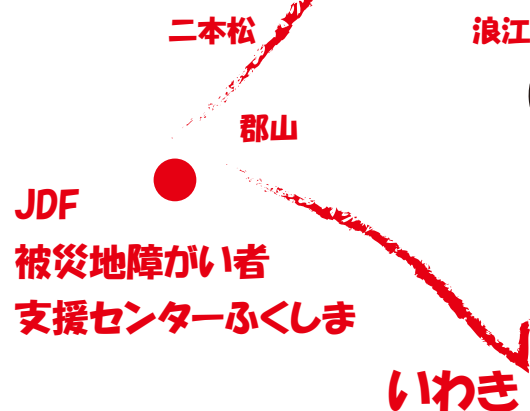
第1号は、いわき市のわいわい作業所さんに送りました。北九州の新門司港からフェリーで二晩かけて東京港に入りました。上陸後、初めての関東での運転にひやひやししながら、また被災地に赴くことを思うとたいへん緊張したことを今でも覚えています。開設したばかりの被災地 障がい者支援センターふくしまに到着した時は、本当にホッとしました。

ちょうどきょうされん理事長の西村直さんもおいででしたので、センターの車の後について行きながらいわき市に入りました。四倉のわいわい作業所に着くまでに、パトカーと自衛隊のトラックとしかすれ違いませんでしたので、心臓がドキドキしました。

最初の車を運んだ時は、まだ瓦礫が山のように街の中にあり、津波の後の臭いが報道ではわからない被害のひどさを感じさせました。溝に横たわったままの車や傾きボロボロになった家、かげもカタチもなく砂原となった町……。自分の人生の中でもこれほどのショックを受けたことはありません。さらに驚いたのは、被災地のみなさんが黙々と復旧作業をして おられた姿でした。はやく帰って、みんなに知らせなければ！



郡山に福島の支援センターが設けられた。



きぼうのあさがお（南相馬市）

震災により日常の生活を奪われ、あさがおの命でもあった青ばた豆は、借りていた畑に仮設住宅が建ち、風評被害から商品が売れなく被災地支援の販売会に東京までいき販売をしてきました。全国からの励ましや、支援等々本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今なお東京での販売をしています。震災前の日常を取り戻すため、メンバー・職員と共に一緒に頑張っています。

福島第一原発



コーヒータイム（浪江町→二本松市）

波江町では、15名ほどいた利用者が全国に、散々となり、二本松市で再開した時は、4名でした。現在は、二本松市と福島市からの利用者也増えて、12名の登録となりました。再開した所が、二本松駅前の市民交流センター内という恵まれた環境なので、二本松や浪江の方々の憩いの場である様に、努力したいと思っています。



震災前、浪江にあったコーヒータイム